

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月26日

【評価実施概要】

事業所番号	1275000097		
法人名	有限会社たすけあい		
事業所名	グループホームたすけあい		
所在地	千葉県香取市岩部1095-1 (電話) 0478-75-1056		
評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成20年11月21日	評価確定日	平成20年12月6日

【情報提供票より】(平成20年11月 4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	15 人	常勤	5.8 人, 非常勤 7人, 常勤換算 8人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 ~ 48,000 円	その他の経費(月額)	24,500 円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(11月 4日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	0 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.8 歳	最低	77 歳	最高	88 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鵜田医院、菅井歯科、県立佐原病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然に囲まれたのどかな環境の中に「グループホームたすけあい」がある。木造平屋建ての新しい建物で、施設内は全面バリアフリーとなっており、木目を基調とした内装と天窓が設置された明るい作りとなっている。また、芝生の敷かれた広い中庭があり日光浴やお茶を楽しむ事が出来る。施設の隣には広大な家庭菜園があり、施設で使用する米や野菜のほとんどが栽培されている。獲れたての新鮮な食材を使用した食事は、安心して美味しいと入居者や家族に大変喜ばれている。職員は、入居者への思いやりと感謝の気持ちを忘れずに、明るく笑顔で家庭的な温かい支援を行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での改善課題においては、介護計画の作成方法、終末期に向けた事業所の方針の説明、災害時の協力体制が挙げられた。評価結果公表後に運営推進会議や職員会議にて話し合いを行ない、適切な改善が行なわれている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者が作成している。評価結果においては、職員会議等で話し合い、改善を図るよう取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、市職員・民生委員・介護支援専門員・入居者・家族・職員を構成員として、3~4ヶ月に1回開催されている。施設の活動状況の報告等を行うと共に、情報や意見の交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の面会時や運営推進会議にて、直接意見や要望等の確認を行っている。意見や要望が挙げられた場合には、職員会議や申し送り等で周知・検討し改善を図っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	代表者の地元であり、近隣住民とは挨拶を交わしたりおすそ分けを頂く関係が築かれている。地域の行事には積極的に参加し、交流を図っている。また、季刊誌を地域へ配布すると共に、施設行事への招待も行い、地域への理解促進を図っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の意見を最大限に尊重する・笑顔のあるグループホーム・地域に溶け込んだ生活を送る等を主眼とした独自の理念を掲げている。入居者が第二の我が家として楽しく過ごせるように、柔軟な支援とサービスの提供に努めている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内に理念が掲示されている。職員に対しては、入職時に理念を説明すると共に、職員会議等で確認を行い理念を共有をしている。職員は常に理念を意識して、思いやりと感謝の気持ちを忘れずに温かい支援を行っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	代表者の地元であり、近隣住民とは挨拶を交わしたりおすそ分けを頂く関係が築かれている。地域の行事には積極的に参加し、交流を図っている。また、季刊誌を地域へ配布すると共に、施設行事への招待も行き、地域への理解促進を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者が作成している。評価結果においては、職員会議等で話し合い、改善を図るよう取り組んでいる。		職員全員が自己評価の作成に関する事で、気付きを大切にしながら、更なるサービスの質の向上に繋げて頂く事を望みます。
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、市職員・民生委員・介護支援専門員・入居者・家族・職員を構成員として、3～4ヶ月に1回開催されている。施設の活動状況の報告等を行うと共に、情報や意見の交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

【千葉県】グループホーム たすけあい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市参加の介護保険事業者会議やグループホーム連絡会に出席し、情報交換を行っている。また、市主宰の勉強会等にも積極的に参加している。他にも、施設の季刊誌を市へ提出すると共に、施設運営全般に関する相談を随時行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面会時に入居者の生活状況を報告すると共に、毎月手紙にて生活状況・金銭管理・行事予定等の報告を行っている。報告の時に日々の記録や写真等を用いる事で、より詳細に報告を行なっている。また、生活状況に変化のあった場合には、随時電話連絡を行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や運営推進会議にて、直接意見や要望等の確認を行っている。意見や要望が挙がった場合には、職員会議や申し送り等で周知・検討し改善を図っている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職者があった場合は、入居者の様子に応じてその人に合った方法で報告を行い、不安を最小限に抑える努力をしている。入職があった場合には、慣れた職員を介してコミュニケーションをとり、早く馴染みの関係が築けるように配慮している。また、家族へは面会時に報告を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて外部研修への参加をしている。研修参加後はレポートを作成すると共に、報告会を行い情報の共有を図っている。内部研修は、月1回の会議において勉強会を行い、職員の質の向上に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会や介護保険事業者会議にて情報交換等を行うと共に、市や地域の介護事業所で開催される勉強会を通じて交流を図っている。また、施設で収穫した野菜を近隣の施設へおすそ分けして交流を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>随時見学を実施していると共に、希望者には体験入居も実施しており、施設の雰囲気に慣れてもらってからの入居となっている。入居後は、職員が手厚く付き添い言葉掛けや会話を多く持ち、出来るだけ早く馴染み安心して生活出来る様に支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の希望や能力に応じて、家事等の生活活動を共同で行っている。職員は入居者を人生の先輩として敬意、家族への思いやりや生活の知識等を学びながら共に支え合う関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時に、本人や家族から意向や生活状況等を確認している。入居後は生活の記録や申し送りにて本人の意向の把握に努め、本人・家族の意向に沿った生活が出来よう支援している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画においては、本人や家族の意向や要望を踏まえた上で、職員会議にて話し合い、計画作成担当者が作成している。作成後は周知を図ると共に、家族へ説明し了承を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月～6ヶ月に1回、評価と見直しを行っている。また、生活状況に変化のあった場合や必要であると判断された場合は、その都度見直しを行っている。見直しの際は、本人や家族の意向や要望を踏まえた上で、職員会議での検討内容や日々の記録をまとめ、計画作成担当者が作成している。作成後は周知を図ると共に、家族へ説明し了承を得ている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の付き添いや買い物等、入居者の希望に応じて柔軟な外出支援を行っている。月1回の出張理美容が実施され、身だしなみの支援を行っている。また、併設の訪問介護事業所と協力して、手厚い人員配置に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院以外にも、希望のかかりつけ医への受診が可能となっている。予防接種の実施や体調に変化があった場合等、必要に応じて往診も行われている。通院においては、希望により職員が支援している。また、看護師職員により日常の適切な健康管理が行われている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期においては、契約時に施設の方針の説明を行い、家族の承諾を得ている。重度化した場合や終末期には、家族・医師・看護師と相談しながら、施設として出来る限りの支援を行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の書類等に付いては事務所に保管し、個人情報の保護を図っている。職員に接遇マナーの指導を行うと共に、居室入口やトイレにカーテンを設置し、入居者のプライバシーを損ねないよう配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課に取り決めは無く、個人のペースを尊重し自由な生活を支援している。希望を言い出せない入居者に対しては、言い出しやすい雰囲気作りや声掛けを工夫し、会話の中から汲み取るように努めている。		

【千葉県】グループホーム たすけあい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望や能力に応じて食事の準備や片付けを共同で行っている。施設では食の楽しみを重視し、使用する米や野菜のほとんどを家庭菜園で栽培している。近隣の農家からおすそ分けを頂く事も多く、獲れたての新鮮な食材を用いた食事は、入居者や家族から大変喜ばれている。また、外食会も実施され食の楽しみを広げている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は希望に応じて回数や時間等柔軟に対応していると共に、体調に応じてシャワー浴や足浴、清拭を実施し清潔保持に努めている。また、浴室は広く設計されていると共に、手すり・エアコンが設置され、利便性や安全性に配慮されている。入浴拒否のあった場合は、言葉掛け等を工夫し適切な対応を図っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の能力や希望に応じて、家事等の生活活動を共同で行っている。入居者は、体操・ゲーム・ぬり絵等、多彩なレクリエーションが日々行なわれていると共に、読書・畑仕事等の趣味活動も支援し、入居者は自由に参加している。また、外出会・運動会等の行事を定期的に実施し、入居者の楽しみを支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	定期的に外出会等の行事を実施していると共に、入居者の希望に応じて、個別に散歩や買い物等柔軟な外出支援を行っている。また、芝生の敷かれた広い中庭があり、自由に出入りして日光浴やお茶を楽しむ事が出来る。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠は行っておらず、入居者の自由な生活を支援している。入居者が外に出た場合は、玄関に設置したチャイムにて把握し、見守りや声掛けで柔軟に対応している。居室には、入居者のプライバシーに配慮して鍵が設置されているが、現在は施錠する入居者はいない。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署の協力のもと消防避難訓練を行っている。施設内は煙探知機や消火器が設置されていると共に、緊急時の役割分担等が作成されている。また、日頃の声掛けや交流により地域住民との協力体制も築かれている。		

【千葉県】グループホーム たすけあい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の嗜好や能力に合わせ適切な食事提供がなされていると共に、水分や食事の摂取量を記録している。摂取量が不足している場合は、栄養補助食品等で必要な栄養の確保に努めている。また、状況に応じて医師への相談も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全面バリアフリーで、玄関や廊下等広いスペースが取られている。トイレには、呼び出しブザーが設置され入居者の安全に配慮している。共有スペースは木目調で統一され、天窓が設置されており明るい造りとなっている。壁には行事や外出時の写真が掲示され、楽しそうな雰囲気伝わってくる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の希望により馴染みの物を自由に持込む事が可能となっており、入居者が居心地良く安心して生活出来るように配慮されている。全居室にベット・エアコン・換気扇が設置されており、空調管理は職員によって適切に行われている。		